

## 貴重図書展示「秋の貴重書名品展」

期間：2020年10月1日（木）～12月28日（月）

場所：総合図書館中百舌鳥1階貴重図書展示ケース

どうじょうじえんぎ えまき  
道成寺縁起絵巻 写 二巻



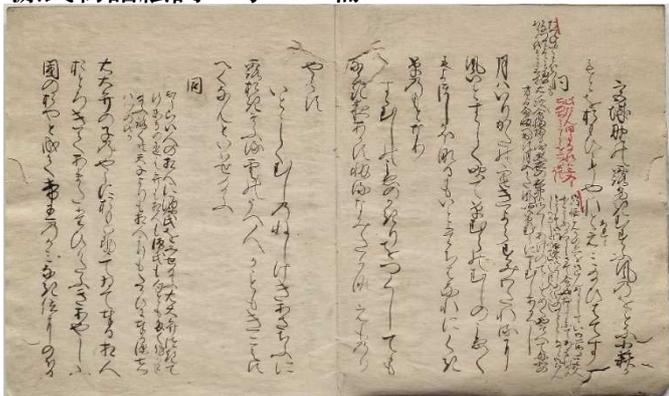
道成寺所蔵本を江戸時代に入って土佐派の画家が忠実に模写したもの。模本であるが、かなりの出来栄えで、あるいは『考古画譜』が言う桑名松平家の模本であるかも知れない。

げんじ とびすごろく  
源氏飛双六 写 一鋪



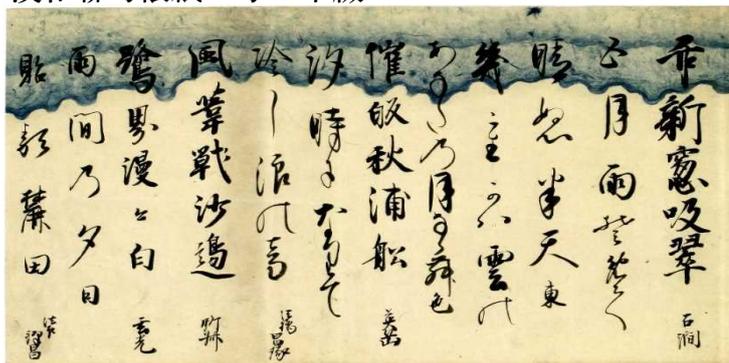
飛双六とは、賽の目の数によっていくつもの区画を飛び越えたり、逆戻りしたりする変化を加えたもの。

げんじものがたりえことば  
源氏物語絵詞 写 一冊



『源氏物語』の各巻から、画になりやすい場面を数ヶ所ずつ選んで本文を抜き出すとともに、その絵の内容を細かく指示したもの。冒頭に後陽成天皇即位前の筆跡である旨が注記されているが、その真偽はともかく、室町時代ごく末期の書写とみなしてよいだろう。

かな れんく かいし  
漢和聯句懷紙 写 十綴



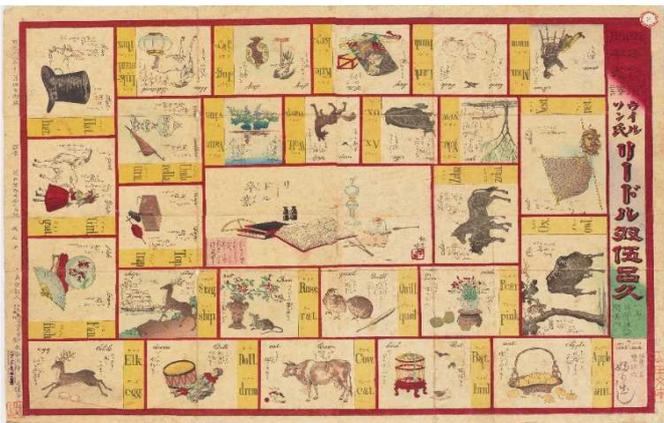
慶長十三年（一六〇三）から寛永十三年（一六三六）の間に催された宮廷周辺の聯句。連衆は後水尾院以下の当代の貴紳・高僧・連歌師などで、当座の懷紙がそのままに残された例として貴重なもの。

いぶき 刊 一冊 寛永九年<sup>キョウ</sup>（一六三二）



舞の本。整版丹緑本。幸若舞曲の刊本には古活字本と整版本があり、挿絵のあるものとないものがある。寛永頃に整版十行本が三十六番揃本として刊行されたが、本書はそれと同版。

ウィルソン氏リードル<sup>すころく</sup>双伍呂久 一枚 製版多色刷 明治十八年（一八八五）  
岡本光沢 岡本信関・松斎吟光画

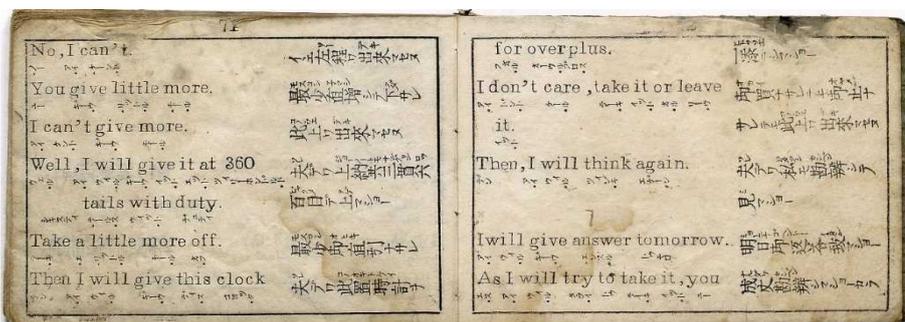


いわや<sup>ぞうし</sup> 草子 写 横一冊



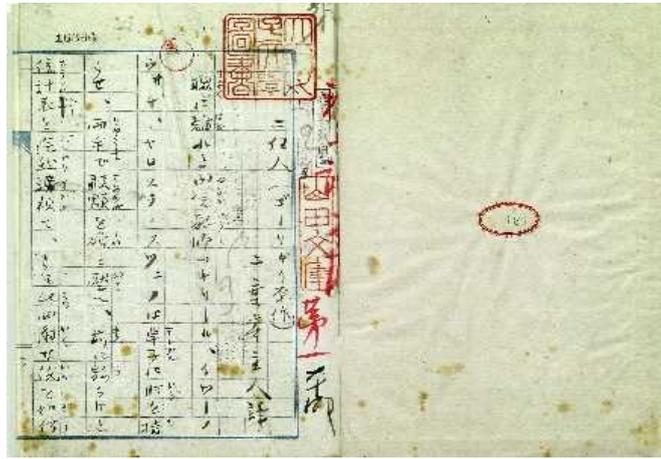
室町時代物語。奈良絵本。継子いじめ型の恋愛物語で、諸本に異同が多い。寛永以後には版本として何度も出版された。本書には六枚の奈良絵が収められている。

わえいしょうばいたいわ<sup>しゅう</sup> 和英商賈対話集 初編 刊 一冊 安政六年（一八五九）  
本木昌造著 長崎築後町塩田幸八刊



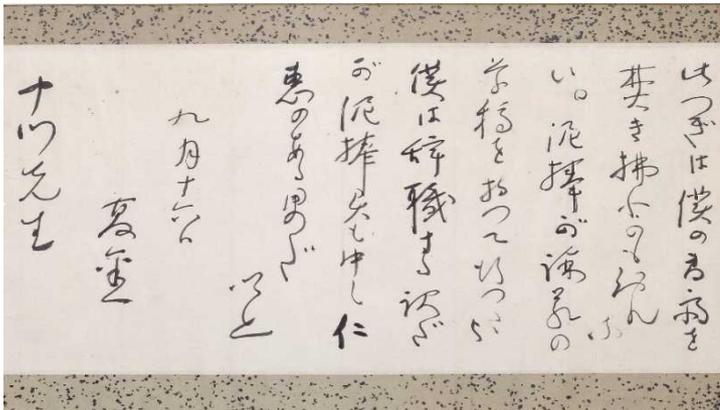
欧文、発音表示の片仮名は鉛活字、和訳文は木版で、活版と木版の二回刷り。日本人の手になる英会話書としては、最も早いもののひとつである。片仮名の小書を利用して発音表記に工夫をこらし、和訳文は表音式仮名遣い。日用の話言葉で二百五十の会話の例文をあげる。

に きょうじん  
二狂人 二葉亭四迷自筆原稿 五〇枚



『新小説』明治四十年（一九〇七）三月号に掲載された、ゴーリキ原作、四迷訳『二狂人』の前半部分の原稿である。用紙は松屋製四〇〇字詰め、署名は「二葉亭主人」とある。こなれた訳文をめざす推敲のあとが随所に見られる。

夏目漱石書簡 一卷 明治三十八年（一九〇五）



明治三十八年九月十六日に門下生の中川芳太郎に宛てたもの。前日漱石宅に泥棒が入ったことが記されているが、この出来事はのちに『門』に素材として使われている。